
2016年2月期 決算発表説明会

イオンディライト株式会社 

代表取締役社長 中山 一平

2016年4月14日

1 2016年2月期 決算報告

2 2017年2月期以降の取り組み

1 2016年2月期 決算報告

2 2017年2月期以降の取り組み

6期連続増収、12期連続増益を更新

連結要約損益計算書 (単位：億円、%)	15/2月期		16/2月期		対前期増減	
	実績	構成比	実績	構成比	前期差	前期比
売上高	2,667	100.0%	2,810	100.0%	143	105.4%
売上総利益	351	13.2%	373	13.3%	22	106.5%
販売管理費	192	7.2%	206	7.4%	14	107.4%
営業利益	158	5.9%	167	5.9%	8	105.3%
経常利益	159	6.0%	166	5.9%	7	104.6%
当期純利益	87	3.3%	96	3.4%	9	110.7%

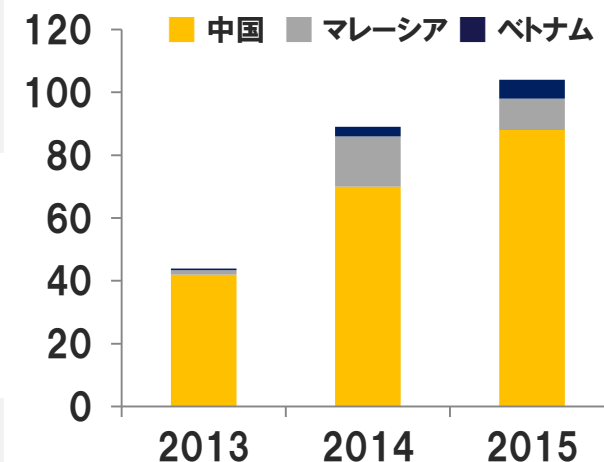
1 国内での事業拡大

病院受託を拡大、白青舎を完全子会社化、
カジタクの成長

2 アジアでの事業拡大

海外売上高100億円を突破

◆ 海外売上高推移(億円)



3 競争優位性の確立

衛生清掃を強化、フロン管理受託体制を構築、
事業ポートフォリオを組み替え

自販機事業を除いた**6事業で増収**
サポート事業は二桁成長 前年比**119.9%**

連結 (単位：億円)	15/2月期	16/2月期	
	実績	実績	前期比
設備管理	458	489	106.8%
清掃	442	478	108.1%
警備	366	384	105.0%
建設施工	419	438	104.5%
サポート	155	186	119.9%
資材	476	505	106.1%
自販機	348	327	94.0%
売上高合計	2,667	2,810	105.4%

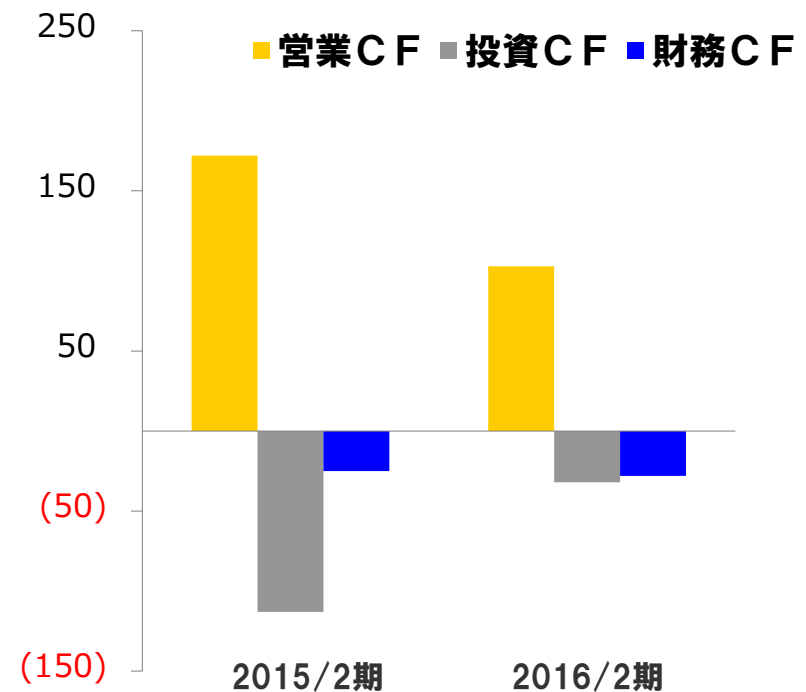
連結貸借対照表

資産の部 (単位：億円)	15/2 月期	16/2 月期	前期 差
流動資産	1,044	1,056	11
有形固定資産	43	70	27
無形固定資産	109	103	▲5
投資等	62	81	19
固定資産	215	256	41
資産合計	1,260	1,313	53

負債・純資産の部 (単位：億円)	15/2 月期	16/2 月期	前期 差
流動負債	466	448	▲18
固定負債	19	25	6
負債合計	485	473	▲12
株主資本	740	810	70
純資産合計	774	840	65
負債・純資産合計	1,260	1,313	53

連結キャッシュフロー計算書

資産の部 (単位：億円)	15/2月期	16/2月期	前期差
営業活動による キャッシュフロー	172	103	▲69
投資活動による キャッシュフロー	▲113	▲32	81
財務活動による キャッシュフロー	▲25	▲28	▲2
現金及び現金同等物 の期末残高	154	194	39



1 2016年2月期 決算報告

2 2017年2月期以降の取り組み

「改革のスピードを加速させる年」

■ 2015/2期-2017/2期 中期経営計画

新たな事業モデルの構築、海外での成長を志向

スピードアップを図るために

- ・ 経営資源を成長ポテンシャルの高い海外へ投下
- ・ 事業モデル変革を遂行するための投資を実施

▶ 2017年2月期 計画数値 売上高3,050億円、営業利益175億円

1 中国事業

■ 中核2社(AD江蘇、武漢小竹)を中心に事業を拡大 【ターゲット】

- ① 高品質なサービスを求める施設
- ② インフラ施設、再開発案件

■ 中国全土への事業拡大に向けたネットワークを構築

- ・ 事業エリアを拡大(M & Aを含む)
- ・ 広い国土を統括するためのガバナンス体制の強化

2020年売上高目標：300億円（年率30%の成長）

2 アセアン事業

■ マレーシア

ライセンス取得により警備事業を開始

■ ベトナム

商業施設、その他施設で受託拡大

▶ M & A、進出エリアの拡大により
アセアン地域最大級の事業基盤を構築

2020年売上高目標：200億円

（2016年度は売上倍増。次年度以降、年率50%の成長）

1 建設施工

設計・デザインで お客さま施設の魅力(集客力)向上に貢献

AEON delight 
DESIGN LAB

商業施設の共用部や専門店へデザイン提案



2 自販機事業

デジタルサイネージ型自販機設置台数 世界No. 1
自販機を通じた新たな付加価値を創出

AR(拡張現実)コンテンツで記念撮影



飲料購入後に
オマケARに切替る



撮影した写真はQR
からダウンロード



商業施設での
集客イベントの様子

1 オフィスビルマーケット

省エネやワークプレイス※でオフィスビル受託拡大へ

※ ワークプレイス…効率的に働くための空間、及びその仕組みや仕掛け

2 清掃ロボット

簡易型モデルを2016年度中に試験導入

3 次世代施設管理モデル

遠隔制御・一元管理を軸とした施設管理

KAJI
TAKU

家事の宅配

共働き世帯へプライベートタイムを提供

■ B2Bパートナーシップの強化

- ・アフターサービス＋カジタクを拡大
家電・住設＋点検・掃除
- ・メーカー協業による新商品の開発

■ 家事玄人のネット販売強化

同シリーズ売上高目標 前年比300%



※ 人気の高い家事代行メニューをパッケージ化
お店で買える家事サービスとして展開

(億円)

100

売上高推移

80

60

40

20

0

2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016

(年度)

お客さまの施設に対して 最高の快適と最高のコストパフォーマンスを提供するために

■ 2015年度 働きやすさ追求活動

各現場で様々な改善好事例



働きやすさ追求活動 取り組み発表会

■ 2016年度 FM-1グランプリ

社内SNSによる提案力コンテスト



従業員一人ひとりが
リーダーシップを発揮できる組織へ

連結要約損益計算書 (単位:億円、%)	17/2月期			16/2月期	
	予想	構成比	前年比	実績	構成比
売上高	3,050	100.0%	108.5%	2,810	100.0%
営業利益	175	5.7%	104.7%	167	5.9%
経常利益	175	5.7%	104.9%	166	5.9%
当期純利益	100	3.3%	103.5%	96	3.4%

2017年2月期営業利益 **175**億円 前年比 **+8**億円（成長投資**10**億円）

項目

対前年増減額(億円)

① イオンディライト単体の成長

18～22億円

② 国内子会社の成長

15～20億円

③ 海外子会社の成長

2 ～ 3億円

①～③ 粗利合計額

35～45億円

対前年 販売管理費増加額(※)

27～30億円

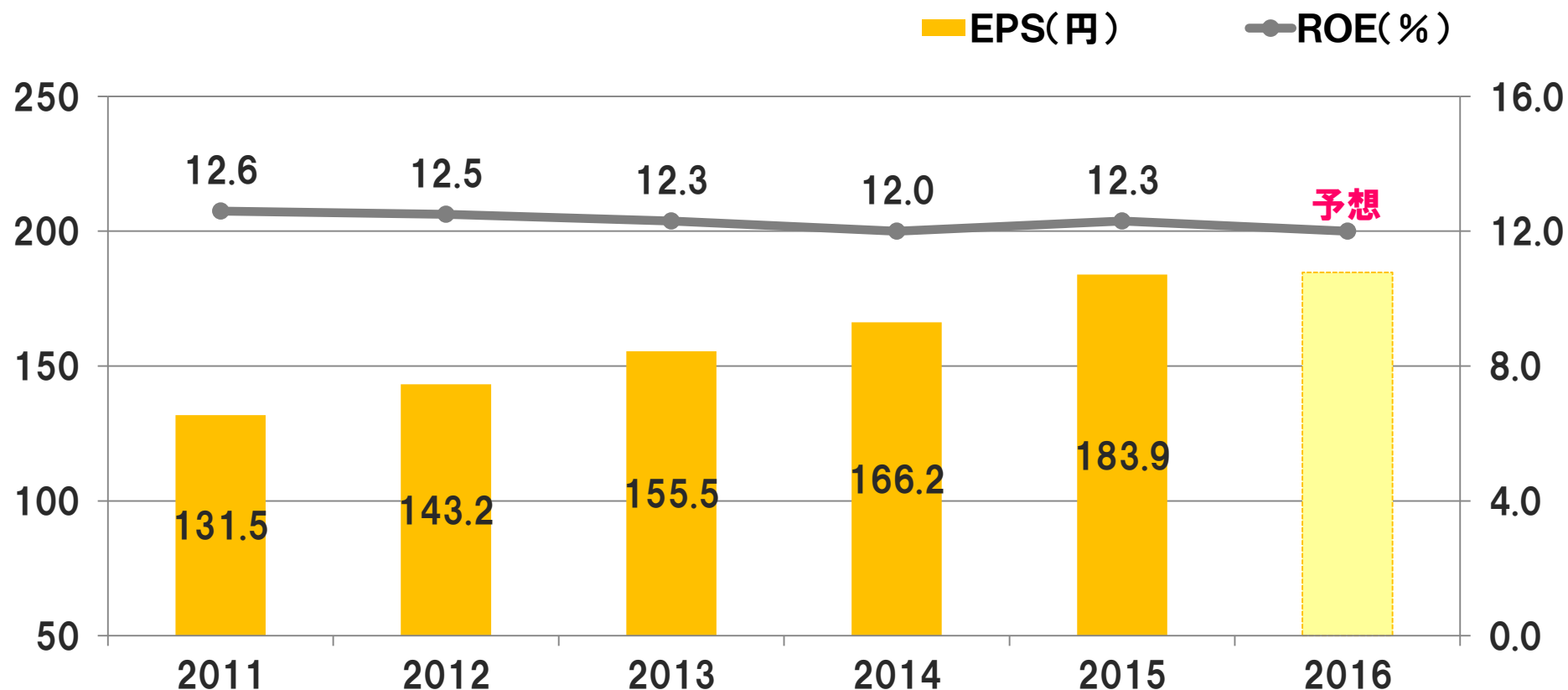
対前年営業利益増加額

8～15億円

※ 白青舎の販管費9.3億円を含む

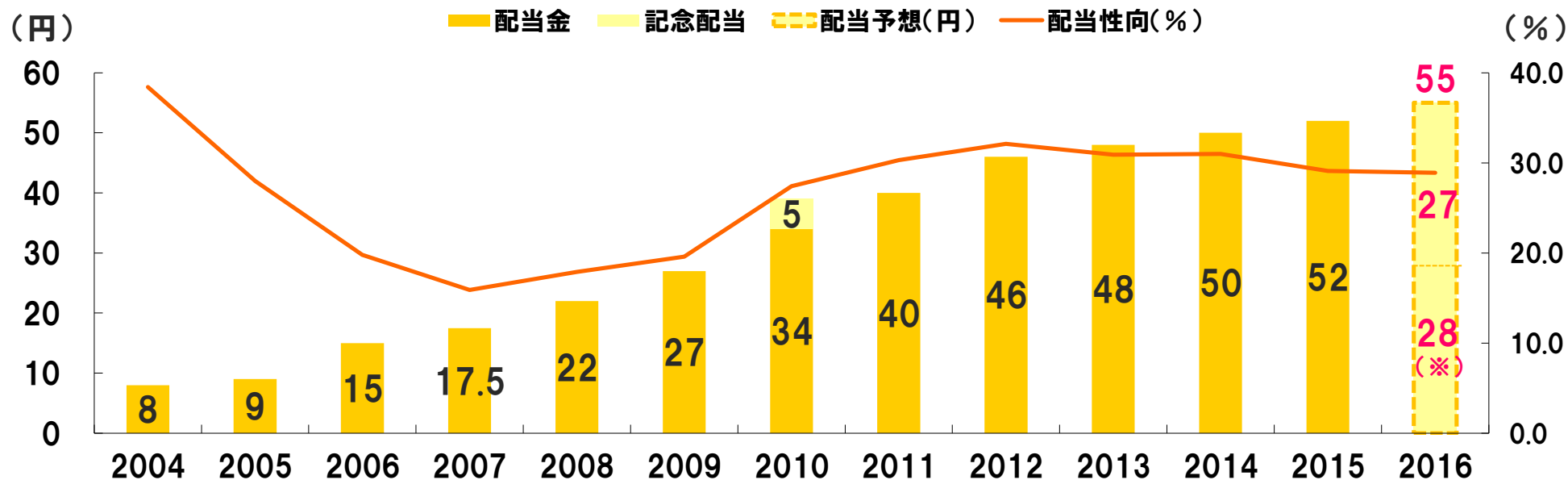
ROE12%程度を維持

- ・ ROE:株主に対する経営の規律としてROEを意識。12%程度を目線とする
- ・ 連結配当性向:安定的な配当を最重要視。直近5年は配当性向30%前後を継続



2005年度以降、**12期連続**の増配を目指します

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
配当額 (円)	8.0	9.0	15.0	17.5	22.0	27.0	39.0	40.0	46.0	48.0	50.0	52.0	55.0
配当性向 (%)	38.4	28.0	19.8	15.9	17.9	19.6	27.4	30.3	32.1	30.9	30.1	28.3	28.9



※ 中間配当予想28円には、記念配当1円が含まれます

■ この資料には、イオンディライトの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。

◇ これらの記述は、過去の事実だけではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定にもとづく見込みです。そのため、実際の業績は見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。

■ 資料中、特に注記がない場合を除き下記の方法により記載しております。

- ◇ 全て連結を対象として記載
- ◇ 記載金額は億円未満を切り捨て
- ◇ 比率は小数点第2位を四捨五入

イオンディライト株式会社
(証券コード:9787)

IR担当連絡先 部署名:グループ戦略本部
責任者名: 京本 明志
TEL 043-351-2563
又は、ホームページよりお問い合わせください。
<http://www.aeondelight.co.jp>

本日、ご説明した内容につきましては発表日当日(2016年4月13日)に入手可能な情報に基づき作成したものであり、
今後の様々な要因により業績予測につきましては、変更する場合がございます。